

カラ	―■	訃報・善寶寺四十一世 劫世信義大和尚遷化	1
カラ	―■	開山忌・育英会報恩供養 第二十二回育英会辞令交付式	2
特	集	●開山忌 ご挨拶 メッセージ	14
カラ	―■	山形・善寶寺参拝旅行	29
読	物	●山形・善寶寺参拝旅行 参加者の感想	37
連	載	●『普勸坐禅儀』に学ぶ その四	49
読	物	●死者と生者―施食会にちなんで―	56
読	物	●嘘から出たまこと	71
		東郷 敏	
	●	善光寺霊園ニュース	84
	●	坐禅会・写経会のお知らせ	86
	●	ニュース・アラカルト	92
留学僧募集のお知らせ	100	読者のたより	104
		編集後記	112
		題字・イラスト 伊藤三喜庵	

巻頭言

善光寺住職 黒田博志

発願利生。

師父大圓和尚は四十年前この地に成寿山善光寺を開創、限られた境内の中で、その隅から隅に順々と伽藍を整え、一歩一歩踏んで、今日の善光寺を遺して参りました。

その師父の背中を追い「師父の存命中はその志を觀。師父没するときはその行を觀る。」を胸になんとか今日まで歩いて参りました。

今年二月には、開山忌に因み第二十二回育英会辞令交付式を執り行なう事が出来ました。三年振りの育英会の再開となり、病床の師父との約束を守ることができた事、誠に感謝の一念です。檀信徒の皆様、関係の皆様方に改めて感謝を申し上げます。これからも一銭一草以って『法輪転ずるところ食輪転ず』世界平和を祈念して続けて参る所存です。

師父の築き上げた善光寺。それは伽藍だけではなく、師父が遺してくれた尊い仏法の伝承教化、素晴らしい人、人材そして有難く篤い檀信徒の皆様とのご縁です。今年は奇しくも開創四十周年。留学僧育英会も設立二十五周年を迎えるに至ります。

師父が開創以来変わらずに、豁然と抱いた理念『宗祖を通して釈尊に還る』。師父を想うに、全く『ゼロからの出発』。草創期の苦勞、艱難は、現代を生きる私の想像をはるかに超えています。食うや食わずではない、食えなかったと聞

かされたことがございます。師父の口へせ、「そのすべは檀信徒各家の皆々さまの尊いご至誠とご浄財のお蔭だと、仏天のご加護に感謝報恩のまことを尽しても尽しても、尚尽し足りない気持ちだ」と言い放つ師父の姿が彷彿としております。

その師父も遷化して早や六年、来年は七回忌法要を迎えます。

師父亡き後、多くの方に助けられ、多くの尊いご縁に導かれ、守られながら歩んでまいりました。師父の七回忌に因み報恩の誠を尽くして『晋山式』を相勤めさせて頂く運びとなります。師父が開基家の御恩に報いんが為に、付けた山号。それがナリスの山、成寿山善光寺です。その『山に晋すすむ』。成寿山の住職としての就任式がこの晋山式です。

私にとりましては『生涯一度』の機会、住職として、僧侶としての更なる責任感に身の引き締まる思いです。

師父の晋山式は、昭和四十七年、十一月二十八日。この時点、私はこの世に『生』

をいただいております。来年十一月二十八日。私もまた一步、師父の跡を踏む所存です。

師父の死と共に突然課せられた私の重責。継承以来、唯唯必至一所懸命に歩んで参りました。

今年一年間も多勢のご縁の方々に支えられ、救われて無事に過ごすことができました。厚く厚く深く深く感謝お礼申し上げます。来年は私にとって、大変革の年、更に一步を進めるべく、精一杯弁道精進致す決意です。

今後とも、ご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。